

中国語の環

第123号

『中国語の環』編集室編 2023年4月

- 目次
- 9 巻頭のことば 「あるもの」と「ないもの」と
 - 10 中国語でどういう？ あなたはどれ？
 - 11 例文で読き(=解き)ほぐす中国語文法
Lesson 7 「ちょっと…」って、中国語でどう言う？
 - 12 語彙学習の話 中国語の名詞について
 - 13 紛らわしい文法表現 “V着”と“V了”
 - 15 看图学谚语 絵で見ることわざ(13)
 - 17 中国語と文化 SOV式の日本社会とSVO式の中国社会
 - 18 中国語の文法は面白い “你吃吧”という言い方は丁寧でしょうか
 - 19 読者の広場 香坂先生の足跡をたどって

ひとことエッセイ

同じく腰掛けであっても背もたれの有無によって“椅子”と“凳子”に呼び方が変わることは、中国語を習った人なら誰でも知っている。“椅子”の“椅”はもともとは寄り掛かかる意味を表す“倚”を用いた。“倚子”とは寄り掛かかる、つまり背をもたせかける道具の意である。我が国でも古くは「倚子」と書き、イシと読ませている。だとすれば手元の二、三の中日辞典に見える“椅子”の語釈「(背もたれのある)椅子」は、ちょっとヘンだ。「背もたれのある」という括弧内の補足は、別に「背もたれない」椅子が存在することを前提にしているからだ。“椅子”は椅子、イス、補足するなら「背もたれのある腰掛け」とでもすべきだろう。

一方の“凳子”。こちらは「背もたれない腰掛け」か。さすがに「背もたれない椅子」にはまだ出会っていない。もっともうるさく言えば、「脚の付いた」という補足が要りそうだ。なぜなら脚のないずんどう型の腰掛けは“墩子”と呼んで、“凳子”とは区別しているからだ。
(上野 恵司)

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

「あるもの」と「ないもの」と

理事長 内田 慶市

こちら側に「ある」からとって、相手側にも必ず「ある」と考えるのは、相手を見捨てた一方的、独善的な考え方です。相手も自分と「同じ」はずと考えるのは、「傲慢」ですらあります。このことが現在の世界の多くの争いごとや悲しい事件を引き起こしているのではないのでしょうか？

アメリカにホームステイをしていた時に、ある時、ホストマザーに「明明後日」は英語でどういうのかを聞いたことがあります。日本語では「明明後日」で、中国語では“大后天”ですね。

私：「明日はtomorrowですね。では、あさっては？」

B：「あさっては、木曜だ。」

私：「いや、そうじゃなくて、今日、明日ときて明後日はどう言いますか？」

B：「the day after tomorrowだ。」

私：「そうですね。じゃあ、その次はどう言うのですか？」

B：「today,tomorrow,the day after tomorrow,this Fridayだ。」

私：「いや、今日が火曜日だとは知らない場合には、そう言えないでしょう？」

B：「だから、tomorrow,the day after tomorrow,そしたら次はthis Friday,this Saturdayとなるんだ。」（おいおい、そこに戻るなよ！）

最後には、「今日が火曜日だと知らないなんて、お前は変だ！」と怒られてしまいました。

でも、よくよく考えれば、そういうことはあることなのです。「概念」はあっても、それに対応する表現方法はないことはあるのです。この逆の場合も当然あるでしょう。言葉を学ぶときには、こういうことにも心がける必要があります。

16世紀以降中国にやってきたヨーロッパの宣教師たちは、その点に最大の努力を払いました。ある新しい概念を中国語で相手に伝えるとき、出来る限り相手方の文化に身を置こうと努めたのです。極めて「謙虚」な態度です。ある場合には、自分たちのキリスト教の教理に関することまでも妥協して相手方の思考方法に合わせようとしました。聖像画ですら、完全な中国化を行ったのです。

金子みすずさんは、「みんなちがって、みんないい」と言いましたが、相手を認めること、相手との違いを認識することが、人を理解し、平和な世の中を築く第一歩だと私は考えています。

中国語を学ぶ場合にも、文法的に間違っていないとしても、表現としてはそうは言わないということも多々あります。「気分が悪い」と肯定で言うところを「気分がよくない」と否定で言うのが自然であるときもあります。言葉を学ぶというのは実に様々な側面を含むものであり、それがまた醍醐味でもあるのだと思います。

あなたはどれ？

張 勤（中京大学）

まずは課題から。(1)を自然な中国語で言えば、どのようになるのか。
(1)玉光鎮に入ると、まず麵の店が軒を連ねているのが目に入るだろう。
さまざまな言い方がありうるが、まず自然に(2)(3)が口にされるだろう。

- (2)一进入玉光镇，你首先会看到的是鳞次栉比的面店。
- (3)当你进入玉光镇，首先会看到的是一家挨一家的面店。
- (4)一进入玉光镇，首先映入眼帘的将会是一家家紧挨着的面店。

日本語のように「麵の店が軒を連ねている」光景を目にする主体が表現されない
(4)もあるが、(2)(3)のようにその光景を見るだろう主体を明示し、それを“你”で表すのが一般的だ。ところで、この“你”は誰のことだろうか。

(5)在电脑教学中，学生真正成了学习的主人。电脑老师很“听话”，不会笑你“笨”，你尽可以反复跟读，尽可以“打破砂锅问到底”。（コンピューター教学では、学生が正に学習の主人となる。コンピューター先生はとても「素直」で、「バカ」と笑われることもなく、何度でもそれについて朗読できるし、とことんまで質問することもできる。）

(6)一片毫无生机的土地，不需要你投入满地黄金，只要你给它水，让它喝足了醒来，你撒下的种子，就会长出你要的东西。（活力のない土地は、金などたくさん入れなくても、水さえ与えて目が覚めるほど飲ませれば、蒔いた種が思い通りに育ってくる。）

(2)(3)(5)(6)にある“你”は二人称としての特定の「あなた」や「きみ」ではなく、人一般を指して、「(人は)誰でも」という意味で使われているのだ。(2)で言うと、玉光鎮に入る誰もが麵の店が軒を連ねているのが目に入ると表現している。

ところで、この「(人は)誰でも」の“你”の醍醐味は、「あなた」の“你”といつでも繋がっており、両者間を常に行き来していることにある。

(7)A：这台仪器的用法很简单，按这个电钮，它就会告诉你材料的含水量。（この器具の使い方はとても簡単で、このボタンを押せば、材料の含水量が示されるよ。）

B：那么灵？我试试。（そんなに賢いの？試してみよう。）

(7)の“你”はまずBを指すが、同時に器具を使うあらゆる人をも指す。言い換えると、このような“你”は目の前の相手を指す現場性の表現でありながらも、あらゆる人においてそうなるという一般化の表現にもなっている。そのような使い方から表現の深さが醸し出され、また使い慣れることの難しさともなっている。

もちろん(4)のように“你”を使わないこともできるが、上に見た「(人は)誰でも」の“你”の醍醐味がなくなり、次のような面白い表現もできない。

(8)你已进入监控区域。（あなたは既に監視区域に入った／ここは監視区域だ。）

Lesson 7 「ちょっと…」って、中国語でどう言う？

古川 裕（大阪大学）

言語には、それぞれの言語の話し手が好む「XX語らしい」表現があるような気がします。たとえば、日本語では角が立つような直截的な言い方はなるべく避けて、ゆるい言い方を好む傾向があります。明確な数量を言わずに「二つほどください」と曖昧な言い方をしたり、「コーヒーでも飲みませんか」と言って「コーヒー」以外の飲み物もほのめかしたりします。名詞の後ろに「…ほど」や「…でも」を添えて日本語らしいゆるさがあらわれていますね。また、日本語の話し手は「今日は昨日よりちょっと暑くて、ちょっと疲れたので、ちょっと水でも飲んで、ちょっと外に出て、ちょっと休みたい」など「ちょっと」を愛用します。このセリフから「ちょっと」を取り去ってしまうと、文法的にはパーフェクトであっても、日本語らしいナチュラルな言い方ではなくなってしまいます。日本人が美徳と考える「控えめ」志向が言語表現では「ちょっと」や「少し」のような語に託されて、なるべく低め、軽め、小さめに伝えようとするのでしょう。では、これらの「ちょっと…」を中国語ではどのように表現すればよいか、「ちょっと」見てみましょう。

(1)今日は昨日よりちょっと暑い“今天比昨天热一点儿”：

「今日」と「昨日」の気温を比較した結果、温度差が「ちょっと」あることを伝えています。“比”を使う比較表現では比較して判明した差は形容詞の後ろに置くことに注意しましょう。

(2)ちょっと疲れた“有点儿累了”：

別の時点と比べて疲れたというのではなく、「疲れ」という不快な状態が「ちょっと」あると言うわけなので“有点儿”が適訳です。

(3)ちょっと水を飲む“喝一点儿水”：

飲みたい水の量が「ちょっと」あることを伝えているので、少量を表す“一点儿”を名詞の前に置きます。

(4)ちょっと外に出る“出去一下儿”：

「外出」を本気ではなく、軽く試してみたいようなニュアンスですから、動作行為を一回だけ気軽に行なうことを表す“一下儿”を動詞の後ろに置きます。

(5)ちょっと休む“休息一会儿”：

「休憩時間」が短いことに焦点があるので、動作時間の短さを表す“一会儿”を動詞の後ろに置きます。

というわけで以上5つの「ちょっと」を集めれば、中国語訳が完成です。

今日は昨日よりちょっと暑くて、ちょっと疲れたので、ちょっと水でも飲んで、ちょっと外に出て、ちょっと休みたい。

“今天比昨天热一点儿，有点儿累了，想喝一点儿水，出去一下儿，休息一会儿。”

中国語の名詞について

沈 国威 (関西大学)

名詞はもの・ことの名前である。自然界の森羅万象や人間による生産物はもちろんのこと、精神上的の創造物までいずれも名詞で呼ばれる。どの言語でも語彙の中で名詞が最も多く、中国語も例外ではない。中国語の名詞は、英語のように個体名詞(可算)、物質名詞(不可算)などの区別がないが、意味的には具体名詞、事件名詞、抽象名詞に分けることができる。具体名詞は、自然物、生産物、そして人間が中心となった生産者に分けることができる。事件名詞は、自然界の変化や人間の活動を表し、抽象名詞は、基本的に人間の頭の中で作り出したものである。名詞は文中で主語や目的語になり、また他の名詞を修飾することも可能だが、その最大の特徴は、増え続けることである。この性質は、どのように増やすか、増えた名詞をどのように整理整頓するかという問題を引き起こす。現代中国語の名詞は、次のようになっている。(国際中文教育標準の語彙リスト、総語数11,092語、名詞4,510語)

| | | | |
|--------------|----------------|-------------|-------------|
| 一字語431 (10%) | 二字語3,714 (82%) | 三字語334 (7%) | 四字語7 (0.2%) |
|--------------|----------------|-------------|-------------|

二字語がメインであることは一目瞭然である。中国語の名詞は一字語(単音節)から二字語(複音節)へ発展していると主張する研究者もある。二字語を造る方法は大きく語彙的な方法と文法的方法に分けられる。前者は、疊語、聯綿字、派生、並列の別があり、“家家户户、男男女女；芙蓉、蝙蝠；老虎、椅子；道路、学习、和平”などが例語である。後者には、修飾構造(定中)、支配構造(述目)があり、“草地、高山；知己、立春、结果”など、枚挙に暇がない。名詞の多くは、後者の例で占める。二字語は重要だが、三字語も要注意である。なぜなら三字語は新語を増やすことに絡む反面、増えすぎた新語の整理整頓にも関係するからである。三字語は、“白富美”“祖父母”のような語もあるが、主に1+2と2+1というパターンである。「1」は、接頭・接尾という接辞成分である。接頭辞は“新大陆、大家族、低血压”のように意味を限定することにより、新語を産出する。一方、接尾辞の主な役割は、物を表すものに“一具、一器、一机、一科、一品”，人を表すものに“一手、一者、一员、一家、一士”，事を表すのに“一界、一主义、一时代”，属性を表すものに“一点、一面、一式、一体、一型、一性”というように語を意味別に分類することである。中国語はかつて偏や旁によって漢字(即ち概念)をグループ分けした(《说文解字》は初めて520以上の部首を立てた)。但し部首はあくまでも視覚的なものである。その後、“松树、鲤鱼、车轮”のように二字語による音声化が行われるようになったが、西洋の科学知識の導入により、三字語が増加した。社会の発展と科学の進歩によって概念が爆発的に増える昨今、物事を分類することはますます重要になってくる。いまま増えつつある接辞成分の知識は、新語の創出や未知の語の理解において、欠かせないものである。

“V着”と“V了”

魯 曉琨（文京学院大学）

「ある場所に人や事物が存在する」ことをいう文は「存在文」と呼ばれ，“V着”と“V了”は、いずれも静態存在文において用いることができます。例えば、

- (1) a 门口坐着一个人。(入口に誰かが座っている。)
 b 门口坐了一个人。(入口に誰かが座っている。)
- (2) a 树上开着几朵花。(木の上にくっつか花が咲いている。)
 b 树上开了几朵花。(木の上にくっつか花が咲いている。)
- (3) a 墙上挂着一幅画。(壁に1枚の絵が掛かっている。)
 b 墙上挂了一幅画。(壁に1枚の絵が掛けてある。)
- (4) a 冰箱里放着两瓶啤酒。(冷蔵庫にビールが2本入っている。)
 b 冰箱里放了两瓶啤酒。(冷蔵庫にビールを2本入れてある。)

例(1)~(4)では“V着”と“V了”は両方とも動作が終結すると同時に、動作の結果として対象物がある場所に残留しているという状態が持続していることを表します。(1)では、ある人が「座る」という動作を行った結果として「入口に座っている」状態が持続しています。(2)も同様に解釈できます。(3)では誰かの「掛ける」という動作の結果として「壁に絵が掛かっている」という状態が持続しています。(4)も同様に解釈できます。このような共通点があるため、(1)~(4)では“V着”と“V了”は同じように見えます。しかし、両者は異なる内在的な意味も持っています。“V着”の“着”は状態の持続を、“V了”の“了”は動作の実現を表すという区別は存在文にも反映されています。

構造上においては、(1)~(4)のような両方とも言える文の“V”の前に異なる種類の副詞を入れると、片方しか用いられないようになります。(5)(6)では、“V”の前に持続性を含意している副詞“总是”“一直”を付け加えると、“V着”しか用いることができません。反対に(7)(8)では、“V”の前に已然性を含意している副詞“又”“刚”を付け加えると、“V了”しか用いることができません。

- (5) a 门口总是坐着一个人。(入口にいつも誰かが座っている。)
 * b 门口总是坐了一个人。
- (6) a 树上一直开着几朵花。(木の上はずっとくっつか花が咲いている)
 * b 树上一直开了几朵花。
- (7)* a 墙上又挂着一幅画。
 b 墙上又挂了一幅画。(壁にまた1枚の絵が掛けられた。)
- (8)* a 冰箱里刚放着两瓶啤酒。
 b 冰箱里刚放了两瓶啤酒。(冷蔵庫にビールを2本入れたばかりです。)

構造上の違いは意味上の違いを反映しています。“V着”は動作の作用を背景にし、

動作の結果としての状態の持続に着目するのに対して、“V了”は状態の持続を背景にし、動作の作用に着目します。(5)(6)では“总是”“一直”によって状態の持続を際立たせたため、“V着”しか用いることができません。(7)(8)では“又”“刚”によって動詞の動作性を際立たせたため、“V了”しか用いることができません。

存在文における“V着”と“V了”の違いにより、(1)~(4)のような同じように見える用例でも使う場面の違いがあります。“V了”を選ぶか、“V着”を選ぶかは話し手が動作を意識しているか、意識していないかによります。“V了”を選ぶときは、話し手は動作を意識しているが、“V着”を選ぶときは、動作を意識していません。例(2)の使い分けにはこのような場面が考えられます。朝、窓を開けると、木の上に行くつか花が咲いたことに気づいて、家族の人に言うときは、“你看，树上开了几朵花。”が自然です。つまり、“开”という動作によって花は無から有へ変わったことを言うからです。もし公園で木の上に行くつか花が咲いていることに気づいて、一緒にいる人に話すときは、“你看，树上开着几朵花。”のほうが適切です。同じように例(3)の使い分けには、次の場面が考えられます。夜、旦那の友人が家に訪ねてくるから、奥さんは部屋を飾りました。夕方、旦那は帰ってきて室内の変化を見ながら“V了”を用い、“墙上挂了一幅名画。”“桌子上铺了一块桌布。”“花瓶里插了一把花。”などと言います。こちらの状態は奥さんの動作によって初めて存在するようになったからです。その後、訪ねて来た旦那の友人は室内の飾りを目にしたとき、思い浮かべるのは“V着”構文であるはずで。

“V着”と“V了”の違いにより、片方しか成立できない場合もあります。下記のA組は“V着”しか用いられません。一方、B組は“V了”しか用いられません。

A組

(9)青藏高原蕴藏着丰富的水利资源。

(青藏高原には豊富な水利資源が埋蔵されている。)

(10)连绵的山峰上耸立着雄伟的长城。

(延々続く山の峰に雄壮な万里の長城が聳え立っている。)

(11)北极圈生存着一些稀有动物。

(北極圏には希有動物が生存している。)

B組

(12)他的头上碰了一个大包。(彼は頭をぶつけて大きなこぶを作った。)

(13)鞋底磨了一个大窟窿。(靴の底がすり切れて大きな穴があいた。)

(14)门前挖了一道沟。(門の前に溝を掘った。)

A組では“蕴藏”“耸立”“生存”は状態動詞なので、状態の持続は表せますが、動作の実現は表せません。一方、B組では“碰”“磨”“挖”という動作動詞は動作の実現のみしか表せず、状態の持続は表せません。

参考文献

朱継征2000「中国語の“~着”と“~了”」『新潟大学経済学年報』第24号

絵で見ることわざ(13)

絵 張 恢

文 『中国語の環』編集室



稀泥泥不上墙

xī ní níbushàng qiáng

どろどろした土は壁を塗ることができない；意気地の無い人物は支えようがない。“稀泥”の“泥”は名詞。“泥不上”の“泥”は動詞。



瞎猫也会碰到死老鼠

xiāmāo yě huì pèngdào sǐ lǎoshǔ

目が見えない猫でも死んだ鼠にぶつかることがある；出歩いていると、時には思わぬ幸運に出会うこともあるものだ。犬も歩けば棒に当たる。



夏练三伏，冬练三九

xiàliàn sānfú, dōngliàn sānjiǔ

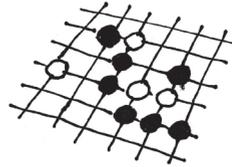
夏の「三伏」、冬の「三九」にこそ体を鍛えるべきだ。“三伏”は夏の暑さの最もはげしい時期，“三九”は冬の寒さの最もきびしい時期とされる。



喜鹊叫，好事到；乌鸦叫，坏事到

xǐquè jiào, hào shì dào; wūyā jiào, huàishì dào

カササギが鳴けばめでたい事が起き、カラスが鳴けば不吉な事が起こる。カササギ(鶺鴒)はカラスより少し小さく、尾の長い鳥。カラス科。



下棋看五步

xià qí kàn wǔ bù

碁を打つ(或いは将棋を指す)には五手先を読まなければならない；事を行うには遠い見通しをもたなければならない。“下棋也要看三步”とも。



夏至雨，值千金

xiàzhì yǔ, zhí qiānjīn

夏至(げし)の雨は値(あたい)千金；日照時間が長く、気温の高い夏至の頃に降る雨は豊作の兆しである。“夏至有雨豆子肥”とも。



先小人，后君子

xiān xiǎorén, hòu jūnzǐ

(後でいざこざをおこさないように)
煩わしいことは先に話しをつけておくべきだ。“小人”は人格のそなわっていない人；“君子”に対して。



先学会走才能学跑

xiān xuéhuì zǒu cái néng xué pǎo

まず歩き方を覚えようで走り方を覚える；何事も基礎が大切で，成果を急ぎすぎず一歩一歩進めていかなければならない。急(せ)いては事を仕損ずる。



响鼓不用重槌

xiǎngǔ bú yòng zhòng chuí

よく鳴る太鼓は軽く打っても響く；聡明な人はあれこれくだくだしく言われなくても，指摘されればすぐに気が付く。



心急吃不了热豆腐

xīnjí chībùliǎo rè dòufu

熱い豆腐を急いで食べようとするとかげどをする；急(せ)いては事を仕損ずる。“吃不了”は“吃不得”とも。“热豆腐”は“热烧饼”“热馒头”とも。



新官上任三把火

xīnguān shàng rèn sān bǎ huǒ

新任の役人は着任早々二、三の目立った仕事をしようとする。“三把火”は三本のたいまつ。諸葛孔明が三つの火攻めの策を用いた故事に基づくとも。



秀才不出门，能知天下事

xiùcai bù chūmén, néng zhī tiānxià shì

秀才は居ながらにして天下の事を知る；書を読んでいる人は外出しなくても世の中の事を知っている。“秀才”は，もと科挙に応募するために勉強中の人。

SOV式の日本社会とSVO式の中国社会

加藤 徹 (明治大学)

この4月からNHKラジオ「まいにち中国語」の講師を担当する。第1回放送では“**开始行动**”という中国語をとりあげる。まだピンインも簡体字も知らない初心者を相手に、初回から「発音してみよう」とうながすのは冒険だ。また、テキストの一部のピンインに「かな」をふったのも、賛否両論的になるかもしれない。

さて、日本語の語順はSOV（主語・目的語・動詞）だ。だが、漢語の熟語ではVO（動詞・目的語）の語順をとる。書を読むのは「書読」ではなく「読書」。試験を受けるのは「験受」ではなく「受験」。人を殺すのは「人殺」ではなく「殺人」。近年、「鬼滅の刃」というタイトルの漫画作品が国際的に大人気になった。ネット界限では「鬼を滅ぼすのなら、滅鬼のはずでしょ？ なぜ鬼滅なの？ なにかの伏線？」という議論や考察が澎湃として湧きおこった。日本語はSOVだが漢語に限ってはVO、という認識は、日本の小中学生レベルでも共有されている。

そんな日本人も、四字以上の漢語の表現では、本能的にSOV式に回帰する。撮影を禁止することは「禁止撮影」ではなく「撮影禁止」。行動を開始することは「開始行動」ではなく「行動開始」。

人間の心理も、言語表現も「線状性」という宿命をもつ。全体をパッと見ることができない二次元の絵画と違い、耳で聞く音楽も口頭語も、最初から順をおって聞くうちにだんだんわかるという一次元的性質をもつ。「先手必勝」というとおり、順番が前の言葉のほうが、あとの言葉よりも印象が強く残る。

なぜ日本語はSOVなのに中国語はSVOなのか。もしかすると、両国民の潜在意識の違いの反映かもしれない。

日本人の感覚では、「行動開始」は、行動は名詞的、開始は動詞的である。また日本語のSOVという語順は、Vという最終処置の決断の先延ばしや、水面下の軌道修正に便利な言葉だ。日本語は「行動…」まで言いかけて気が変わり「行動…自粛」とも言える。「行動開始…は、やめる」のようにあとからひっくり返せる。

中国人の感覚では、“**开始行动!**”は、“**开始**”も“**行动**”も動詞的な気持ちだ。また中国語のSVO語順は、先にVという最終処置を宣言してしまい、水面下の軌道修正がしにくい。“**开始…**”とVまで言いかけて急に気が変わった場合、Oは変更できるが、“**开始**”というVは取り消しにくい。Oつまり目的語を“**病毒清零**”（ゼロコロナ）から“**与病毒共存**”（ウィズコロナ）に修正することはできる。が、いったん“**开始**”と宣言した以上、行動を取り消して立ち止まるのはメンツにかかわる。

日本人は、SOV式の日本語を話す。中国人は、SVO式の中国語を話す。のらりくらりと改革を先延ばしにしがちな日本社会に対し、中国社会は、万事につけ振り子のように極端から極端へ動くように見える。

“你吃吧”という言い方は丁寧でしょうか

王 志英（沖縄大学）

中国語の“吧”は話し手の気持ちを表す語気助詞である。相手に命令・依頼・誘いかけなどをする時によく使われる。辞書にはいろいろ書かれているが、その基本的意味を押さえれば、文脈によって、“吧”のその時の意味が生成されるのである。

“吧”の基本的意味は「話し手が文字通りの意味を言いながら、言いたいことが一つだけではなく、ほかにもあるということをほのめかす」のである。

(1) 明天下雨吧。

例(1)は「あした雨が降る」と言いながら、ほかに「降らないかも」という意味をほのめかし、この場合なら推測という意味に解釈される。

1. 相手に命令する場合

話し手の一方的な要求を表す場合は、相手に絶対にそうしてほしいと、伝えたい意味が一つしかないので、“吧”は使えず、“务必”“必须”などの副詞と共起することもできない。

(2) 飞机马上就要起飞了，请大家系好安全带。*吧

(3) 立正！*吧

(4) 你明天务必／必须10点之前赶到学校。*吧

2. 相手に提案、お願いする場合

話し手が言いたいことが一つだけではない場合は“吧”を使用し、ほかの可能性もあることをほのめかし、相手に判断する、断る権限を与え、丁寧さが出るのである。

(5) 我们走吧！

(6) 给我们倒杯水吧。

“能不能”で相手に断る可能性を提示しているなら、更に“吧”を必要としない。

(7) 能不能帮我们照张相？*吧

3. 相手の利益になる場合

話し手は相手を思う気持ちがこれしかないことをアピールし、相手にストレートに勧めることで、遠慮する余地を与えず、丁寧さに繋がるのである。

(8) 吃(吧)、吃(吧)，别客气。

(9) 你别忘了吃药。*吧

例(8)は“吧”があると、相手に“吃”を勧めながら、ほかの思い（「わたしも食べたいのに」など）もあることをほのめかし、場合によって、相手に勧めているどころか、嫌みさえ感じさせられる場合もある。

“吧”は話し手の心理活動を表すものなので、文脈やイントネーションで上手に相手の真意を見極める必要がある。文法機能からは、“吧”は必ずしも不可欠な要素ではないが、あれば話し手の言葉に出せない思いを表すことができるのである。

香坂先生の足跡をたどって

下野新聞社 記者 藤田りか

2022年9月29日は、日中国交正常化50年だった。この日、栃木県の地方新聞・下野（しもつけ）新聞に栃木県出身の中国語学者で日本中国語検定協会創設者の香坂順一氏（1915-2003年）の記事を掲載した。見出しは「教育通し友好に功績」「『架け橋』育成など注力」で、日中友好に尽力した香坂氏を紹介した。

2020年初夏、取材のために栃木県北部・大田原市の大田原高校を訪れると、同窓会室に通された。部屋の中には、大田原高校の歴史を物語る資料や同市在住の人間国宝の竹工芸作品などが陳列されていた。その中でふと目にしたのが、香坂氏が執筆した『支那語文法詳解』をはじめとした複数の辞書や訳本だった。なぜここに香坂先生の本があるのだろうか？ その疑問から香坂氏の足跡をたどる取材が始まった。

私の初中国は天安門事件直前の1989年春。それから中国に関心を持ち1993年から市民講座で中国語を学んだ。折に触れて引いたのは、妹のお下りの『現代中国語辞典』（光生館）だ。

1995年には、栃木県派遣の友好交流員として浙江大学へ留学。スーツケースの中に、香坂氏の辞書と参考書、上野恵司先生のカセットテープ付き(!)の参考書(NHK出版)を入れて、意気揚々と中国大陆にわたった。私が使っていた中国語テキストの多くは「香坂順一著(編)」で、お会いしたことはないが中国語の世界へ導いてくれる老師だった。

取材を進めると香坂氏は栃木県西那須野町の出身で大田原高校を卒業していた。ただ、亡くなって20年ほど経っているため、県内で知る人を探すことはできなかった。香坂氏の著作物を読んだり縁の方々を紹介していただいたりしながら足跡をたどった。

取材の中で分かったことは、行動する香坂氏の姿だった。大田原高校の同窓生の活躍をまとめた本には高校教育に漢文の復活を強く唱えたとあった。著書『北京大学二年』では、中国人との交流が描かれ、インターネット上には、正常化前の1971年に日中文化交流協会代表団の一員として俳優杉村春子氏らとともに北京を訪れた文化人として名前が挙がっていた。

また周恩来の下で対日政策に当たった廖承志や郭沫若とのエピソードは、国家間の戦略も垣間見えた。中国要人との交流については、研究の余地がありそうで、「存命中に話をうかがう機会を設けるべきだった」と何度も後悔した。

香坂氏は晩年、「中国語教育を通じて若い人の目を、これからのアジア、これからの世界に向けてもらいたいという念願の実現の努力の継続であったことは疑いありません」と記した。辞書やテキストを通しての教え子ではあるが、香坂氏の言葉を胸に地方から日中友好を進めていきたい。